

SAPPORO

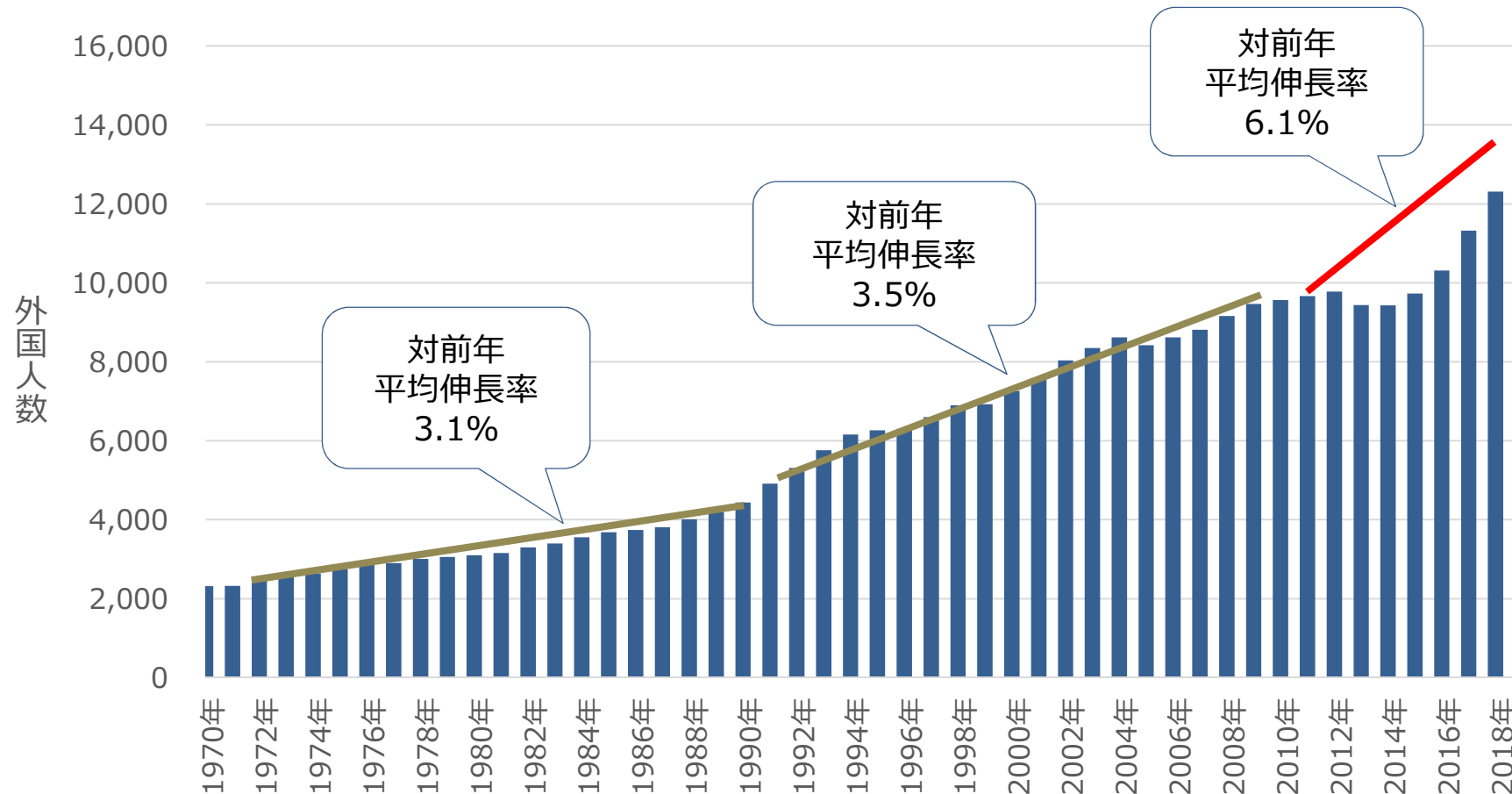
札幌市の多文化共生の取組について

第2回多文化共生の推進に関する研究会 資料

令和元年12月25日
札幌市総務局国際部

札幌市における外国人の概況(1)

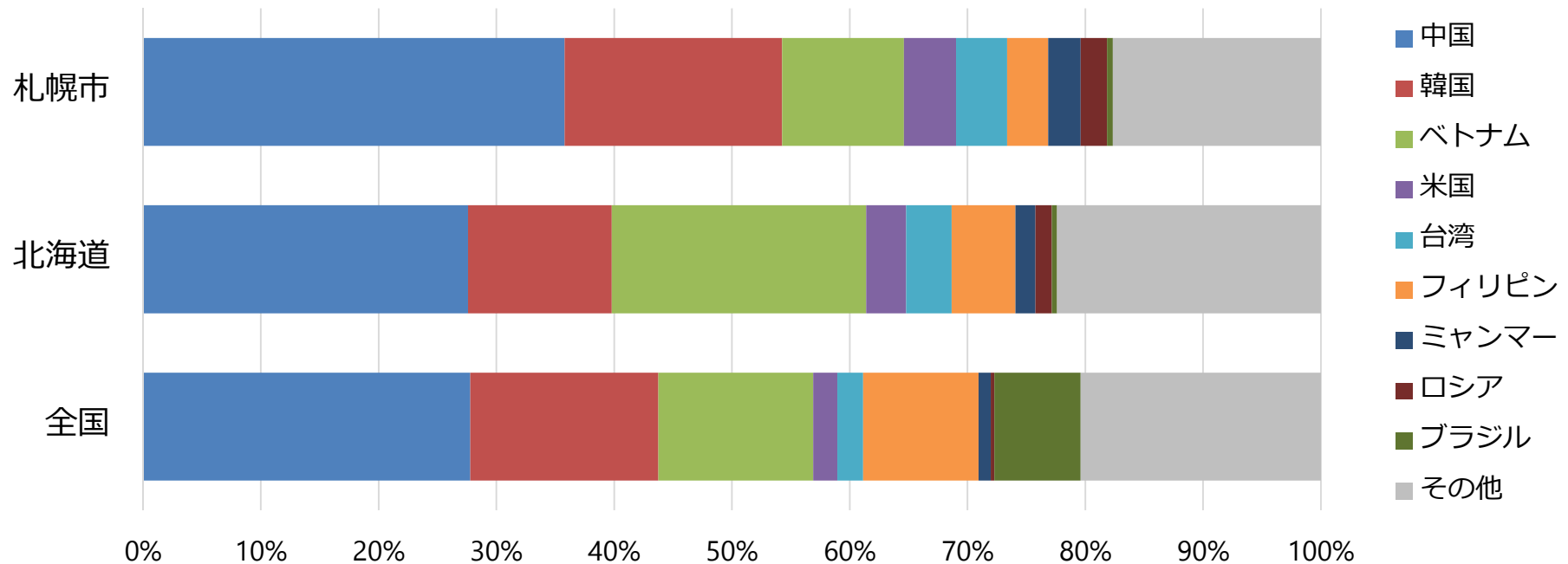
札幌市の在留外国人数の推移



2019年12月1日現在 **14,943人**

札幌市における外国人の概況(2)

札幌市、北海道、全国の国籍割合の比較 (2019年6月現在)

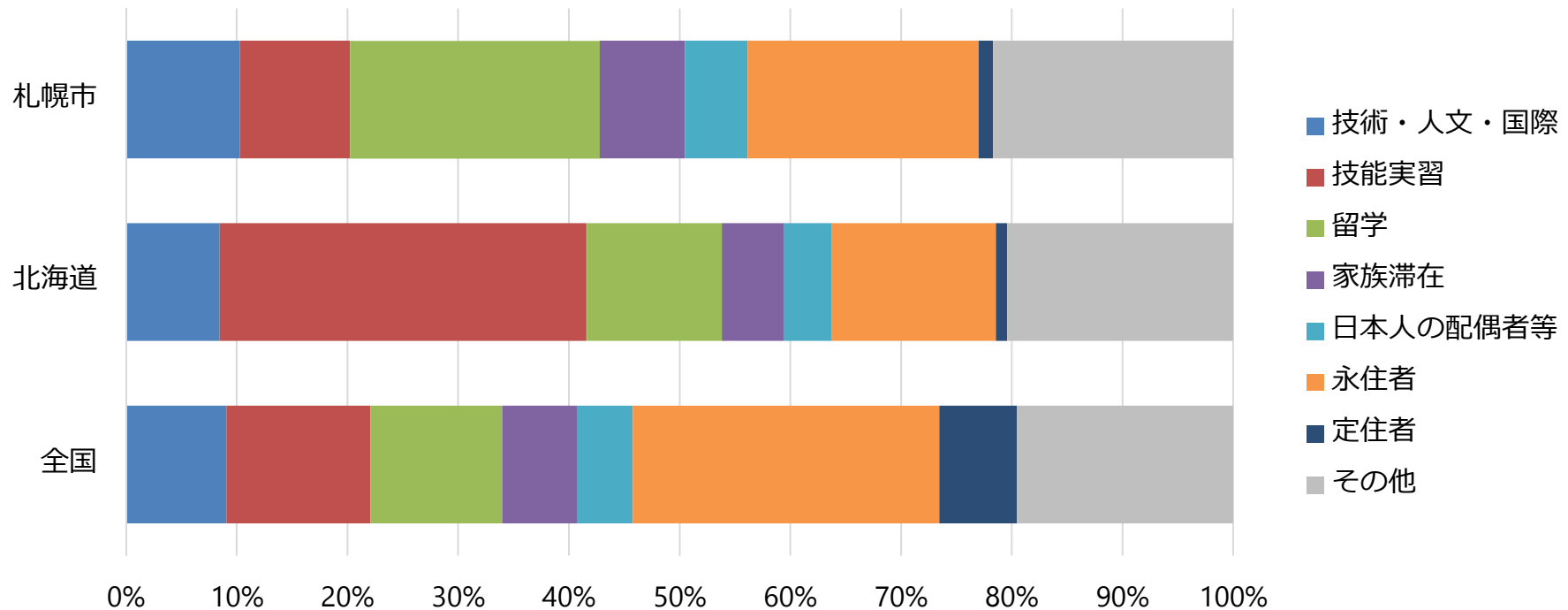


○札幌市や全国では、中国、韓国、ベトナムの順に多いが、北海道は、中国に次いでベトナムが多い。

○札幌市や北海道は、全国に比べるとフィリピンやブラジルの割合が少ない。

札幌市における外国人の概況(3)

札幌市、北海道、全国の在留資格割合の比較 (2019年6月現在)

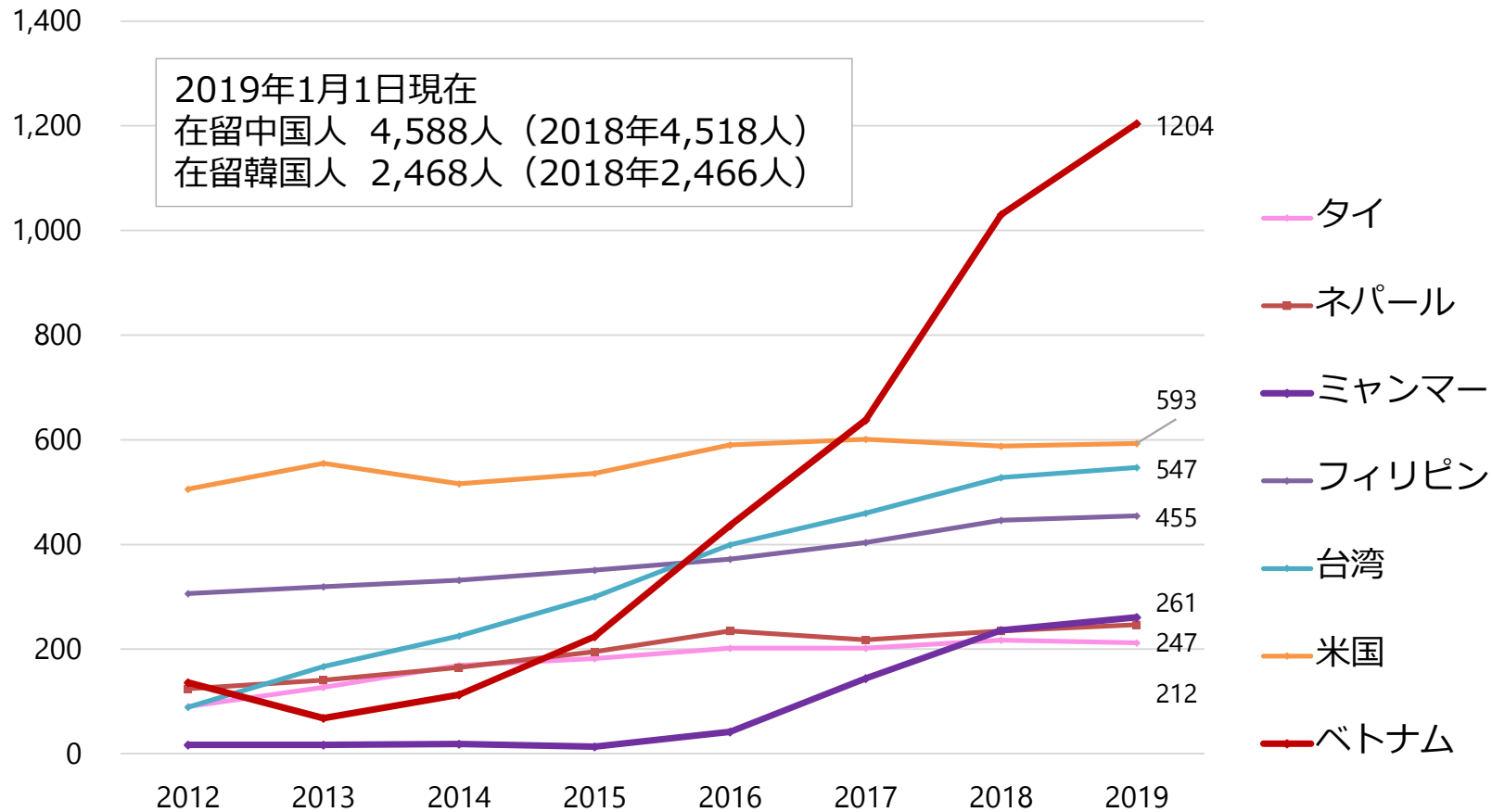


○札幌市は、北海道や全国と比べて「留学」の割合が高い一方、「技能実習」の割合は比較的低い。

○札幌市や北海道は、全国と比べると「永住者」や「定住者」の割合が低い。

札幌市における外国人の概況(4)

近年増加が著しい国籍の在留外国人数の推移



○近年は、ベトナムやミャンマーなどの国籍の外国人の増加率が大きい。

札幌市における外国人の概況(5)

札幌市における在留資格の変化

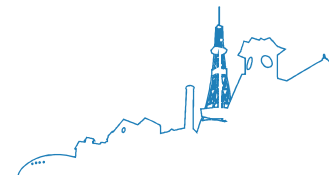
	2014年①	2019年②	②/①
技術・人文・国際	556	1,545	2.78
技能実習	137	1,600	11.68
留学	2,205	3,342	1.52
永住者	2,341	2,947	1.26
その他	4,373	5,198	1.19

全国における在留資格の変化

	2014年①	2019年②	②/①
技術・人文・国際	76,902	256,414	3.33
技能実習	167,626	367,709	2.19
留学	214,525	336,847	1.57
永住者	677,019	783,513	1.16
その他	985,759	1,084,933	1.10

- 札幌市は全国に比べて「技能実習」の増加率が著しく高い。
- 「技術・人文・国際」の在留資格の増加率が、他の在留資格の増加率に比べて高い。

札幌市における多文化共生施策の考え方



札幌に起きる又は起きている変化

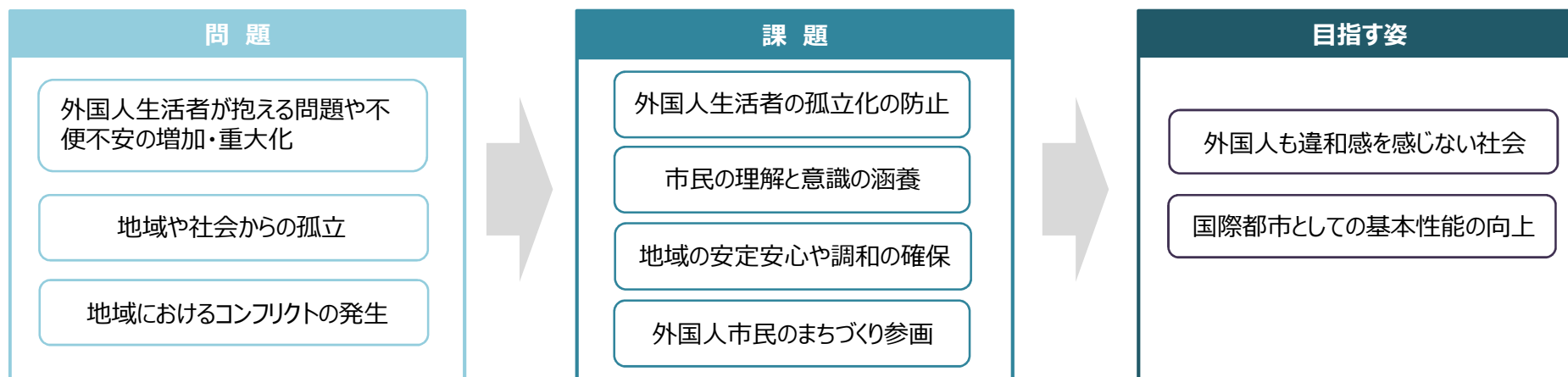
特定技能や、特定技能への移行を前提とした技能実習生や日本語学校留学生の増加

日本語を十分には解さない外国人生活者の増加

非英語圏・母語が日本人にとって馴染みのない国からの在留者の急増

永住者又は日本人や永住者の配偶者をはじめ、中長期在留資格者の増大

異なる母語や習慣をもつ外国人が隣人として普通に暮らす社会



取組の方向性

外国人生活者の孤立化を防止する
暮らし・コミュニケーションのサポート



日本人も含めた市民全体の
異文化理解の促進

国際化推進の政策目標

グローバルな時代に求められる国際感覚を備えたさっぽろの**“ひとづくり”**

グローバルな潮流や人流に対応した包容力あるさっぽろの**“まちづくり”**

憧れと尊敬を集め、国際社会に存在感を示すさっぽろの**“ブランドづくり”**

札幌市が今後取り組む9つの分野



1 さっぽろ外国人相談窓口

SAPPORO HELP DESK for Foreign Residents

在留資格、子育て・教育、福祉、医療、雇用など暮らしに関わる情報提供や相談を多言語で行う総合相談窓口

インフォメーション業務
問い合わせに対して専門機関や利用可能な制度、手続きをご案内するほか、必要に応じてアポ取りや通訳手配を行う。

相談対応業務（コーディネイト業務）
複雑な相談ごとに対し関係機関や地域と問題を共有し、連携して対応する体制を構築しながら問題解決にあたる。

自立支援業務
不安や問題を抱える外国人自らがそれらの解消に向けて行動できるように助言や提案、見守り活動を行う。

「概要」
開設：2019年11月28日（木）
場所：札幌国際プラザ（北1西3 MNビル）
3階：相談カウンター、相談個室、パンフレットコーナー
9階：相談個室、会議スペース
時間：9時30分～17時（原則として、祝日、年末年始を除く月～金曜日）
人員：相談員4名（正職員2名、有期雇用職員2名）
対応方法：来館、電話、メール。日本語、外国語による問合せ可。
言語：電話通訳やタブレット翻訳も利用し、11言語に対応（英語、中国語、韓国語、ベトナム語ほか）

2 行政サービスの多言語発信

わかりやすい日本語の活用

外国人の不便不安を軽減し、孤立化を防止するための一丁目一番地となる行政サービスの多言語発信と「やさしい日本語」の活用

多言語生活ガイド

子育て世帯や高齢者、若年層など標準的な利用者をイメージして、言語別分野別に統一感を持ったリーフレット形式で作成。

「イメージ」
医療、災害、出産子育て
ヘッダーを言語別に色分け

Webサイト

外部サーバーを活用し、相談窓口へ寄せられる相談実績等も踏まえた外国人相談窓口Webサイトを構築。
将来的には、関係部局や関係機関を構成員とする製作委員会（事務局：国際プラザ）を設置し、管理運営を行う手法も視野に入れて検討。

ユーザー側となる外国人の意見も取り入れて製作
外国人コミュニティや支援団体のSNS等のメディアも活用して周知

「課題」
「やさしい日本語」の研究

3 日本語習得支援

札幌で暮らし始める外国人を中心に日本語初学者を対象に日常生活上、社会生活上必要な初級日本語を学ぶ連続講座を開催

「課題」
参加者の確保及び学習意欲の喚起、あわせて学習を継続させるための仕掛けづくり
日本語学校との連携

4 生活ルール・法令理解促進

日本や札幌で暮らすための生活ルール・生活習慣、法令や地域の文化・風習を学ぶガイダンスを、実地講座も交えながら開催

「課題」
参加者の確保及び学習意欲の喚起、あわせて学習を継続させるための仕掛けづくり

5 医療通訳派遣制度の整備

専門的な知識・倫理観を備えた人材の拡充や通訳人材を社会全体でシェアリングする仕組みづくり。
制度試案を作成し、対象医療機関を限定した実証実験を実施するほか、医療機関や外国人利用者、医療通訳者等と試案を検証する研究会議を開催することを予定。

「スキームイメージ」
外国人患者が受診（将来拡充すべき部分）し、医療機関へ通訳派遣（⑤）を行う。医療機関は通訳者に③詳細把握、④コーディネイト、⑥利用料支払い、⑦派遣依頼を行う。通訳者は①電話、②通訳、⑧報酬支払を受ける。通訳者は②通訳、⑧報酬支払を受ける。通訳者は②通訳、⑧報酬支払を受ける。通訳者は②通訳、⑧報酬支払を受ける。

「課題」
通訳人材の確保・育成
通訳者の身分保障、報酬制度

6 コミュニティ通訳の育成

区役所等の行政窓口や学校、保育所などの依頼に応じて、行政手続等のコミュニケーション支援を行う外国語通訳ボランティアの育成・派遣。

「課題」
コミュニティ通訳制度の強化・拡充（課題：ドメインの吟味）
通訳者の知識や語学力、倫理観の高度化
安心して通訳業務に従事していただくための身分や報酬等も含めた制度の確立

8 外国人市民のまちづくり参画

外国人ボランティアネットワーク事業

外国人が地域社会の構成員として地域のまちづくりやイベントに参画する仕組の構築。事業を通じたリーダーシップの涵養を目指す。

7 異文化理解促進

地域における交流の促進

異文化に対して寛容な意識の醸成やグローバル人材の育成に資するとともに、外国人市民の共助の輪づくりにもつながる事業（講座、セミナー、集客行事等）の構築。

9 災害時の外国人対策

災害時に公助の側に立って外国人被災者を支援する外国語力を持った市民スタッフ（仮称）Sapporo Multilingual Rescuesを養成するシステムの構築。
災害多言語支援センターの体制強化（各種訓練の実施も含む）
外国人に対する防災啓発

9つの分野を策定するにあたり



札幌市多言語総合相談窓口意見交換会

- ✓ 北海道大学高等教育推進機構 高橋 彩 副機構長を座長に、学識経験者、外国人支援団体関係者、外国人市民らと相談窓口の在り方などについて協議する意見交換会を実施。
- ✓ 共生社会づくりに向けて、行政や社会全体で整えなければならない事業や制度、仕組みに関する論点についてもいくつか示されたことを受け、9つの分野を策定。



これまでの多文化共生の取組(1)



① 行政サービスの多言語化とわかりやすい日本語の活用

くらしのガイドの発行



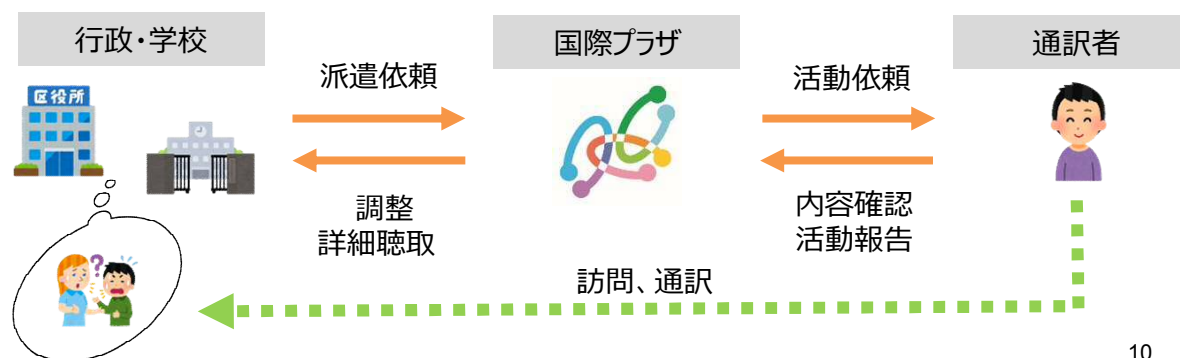
暮らしに必要な情報を多言語で提供する「くらしのガイド」を発行

《言語》 英語、中国語、ハングル、ロシア語

コミュニティ通訳派遣事業



区役所等の行政窓口や学校、保育所などの市関連施設において、行政手続き等のコミュニケーション支援を行う外国語通訳ボランティアの派遣・養成
(札幌国際プラザ補助事業)



《派遣実績》

	H28	H29	H30	R元 ※12/12まで
派遣件数	23	29	76	61

これまでの多文化共生の取組(2)

2 さっぽろ外国人相談窓口 (2019年11月28日開設)

想定相談者

外国人生活者

在留外国人の
日本人の友人知人

在留外国人の属する
コミュニティ・教会

在留外国人の
支援者・支援団体

在留外国人の
受入団体・雇用主

登録支援機関
監理団体

中長期滞在旅行者



さっぽろ外国人相談窓口

SAPPORO HELP DESK for Foreign Residents

在留資格、子育て・教育、福祉、医療、雇用など暮らしに関わる情報提供や相談を多言語で行う総合相談窓口。

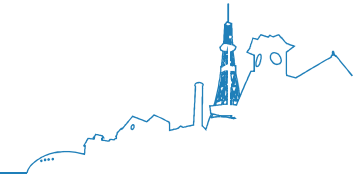
インフォメーション業務
問い合わせに対して専門機関や利用可能な制度、手続きをご案内するほか、必要に応じてアポ取りや通訳手配を行う。

相談対応業務（コーディネート業務）
複雑な相談ごとに対し関係機関や地域と問題を共有し、連携して対応する体制を構築しながら問題解決にあたる。

自立支援業務
不安や問題を抱える外国人自らがそれらの解消に向けて行動できるように助言や提案、見守り活動を行う。

時間	9時30分～17時（祝日、年末年始を除く月～金曜日）
体制	職員5名（管理職1名、正職員2名、有期雇用職員2名） 外国語ボランティア
対応方法	面談、電話、メール
言語	■相談員の対応可能言語：日本語、英語、中国語 ※電話通訳サービスも活用し、全12言語対応

これまでの多文化共生の取組(3)



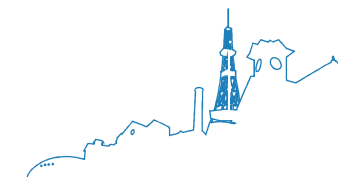
3 医療受診時等急訴救急時の安心対応

医療通訳派遣者等の養成

- 高度医療通訳者を対象としたスキルアップ研修
- 医療従事者を対象とした初歩的な医療英語セミナー
- 医療通訳についての理解を広げることを目的とした医療通訳セミナー
(札幌国際プラザ補助事業)



これまでの多文化共生の取組(4)



4 地域での共助共生に資する日本語習得支援

日本語ボランティアセミナー

H30の取組事例として

- 日本語ボランティアのスキルアップと、新たな担い手の掘り起しを目的としたセミナーの開催
- 市内で活動する日本語ボランティア団体と、日本語ボランティアとして新たに活動を希望する方とのマッチングを目的とした合同説明会の実施
(札幌国際プラザ補助事業)

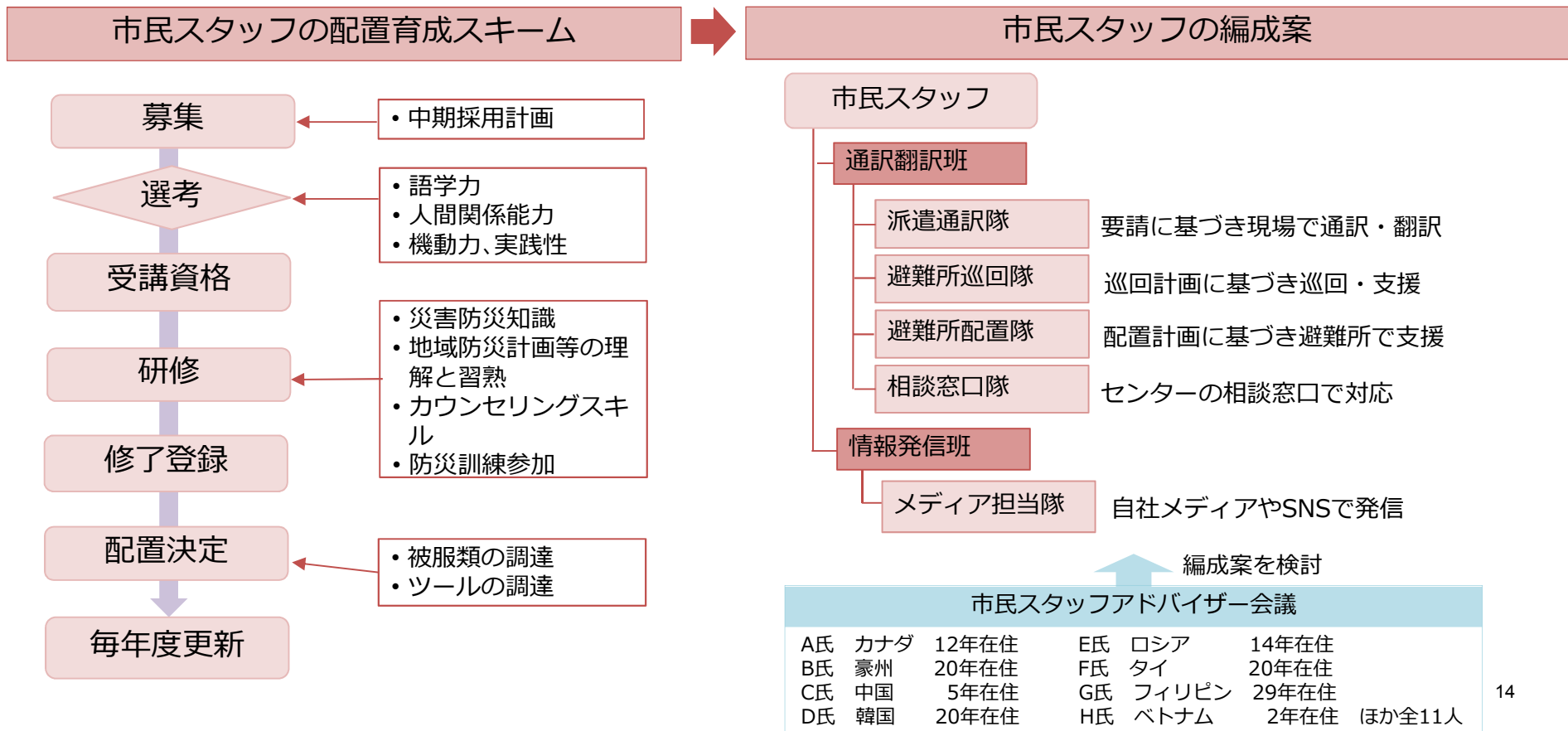


これまでの多文化共生の取組(5)

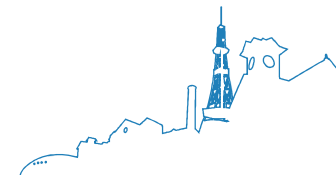
5 被災者・支援者の両側面から捉えた災害時外国人対策

災害多言語市民スタッフの養成

災害時に公助の側に立って外国人被災者を支援する市民スタッフを、外国語ができる日本人市民及び日本語ができる外国人市民の中から事前に選抜育成するための枠組みづくり



これまでの多文化共生の取組(6)



6 外国籍市民のまちづくり参画

外国人まちづくりボランティアネットワーク事業

外国人まちづくりボランティアネットワークを形成し、地域の主催者と一緒になったコミュニティ行事への参画、地域に暮らす外国人との公助・共生を支える取組、外国人の目線やアイデアを活かしたまちづくり事業等を実施。

(札幌国際プラザ補助事業)



今後の取組み体制上の課題



課題1

行政だけでは資源の限界もあり、きめ細やかな対応が困難

企業や学校などの受入機関、地域コミュニティなど、様々な担い手が一体となって取り組んでいくという意識や風土の醸成

課題2

共生社会の実現に取り組む担い手同士の連携が不可欠

札幌国際プラザ（地域国際化協会）のコーディネート機能の拡充と各担い手をエンパワーメントする仕組みづくり

課題3

庁内における多文化共生の推進に係る取組の充実

保健福祉、医療、子育て・教育、コミュニティ振興等を所管する各部署と部課長級会議を設置し、外国人との共生に係る課題の共有、施策・事業の連携強化・円滑化を図る

多文化共生事業の実施体制

